

ことなかるべきを信ずるなり。(信濃田年秀評)

枯草 野口雨情著

發行所は水戸の高木知新堂といふ書林。代價は十六錢、體裁は雅致ある袖珍の書物、ページは五二頁、『毒も罪も』以下十七篇、悉く青年詩人たる著者の詩想より溢れ出たる小さい新體詩集なり。題して「花も實もなき枯草の一篇、わか親愛なる諸兄に捧ぐ」とあり。

僕には一向此方面の眼がないので、事々しく批評などする事が出来ぬが、これについて聊か他と趣を異にすると思はれる節は、一体この種の文學には星や董や、ハートなどがつき物であるけれども全篇通じて夫が見當らぬ。従つて咏じた品物には餘り突飛なハイカラが見えぬ、夫に、言葉に面白

い俗調を交せて其調和が割合甘く行つて居る。面白いのを一つ出して紹介して置させよう。

難祭りする九歳の
桃の花、桃のはな
去歲もことしも
物めしまさめ
日は永くして難様の
夜は短かくて桃の花
ある夜難燈は消えて
幾ともからは忍び來ぬ
難さまの難さまの
緋桃の花はちりけりと

お竹は又も思いけり
難さまと何語る
一昨年
やさしさこゝろ
欠伸にくるゝ三ヶ日
ねむた顔なる春の宵
幼きものよと子鼠の
されとも家人は知らでありき
鼻がおられて哀れなり
次の朝下婢あはて告げぬ
この道に心ある人ならば御覽じて宜しいでせう
(日向志)

明治の家庭 第一卷第號

家庭の爲めの雑誌がいろく出るといふのは、兎に角悪い現象とはいへぬ。これは岸那福雄君の編輯せられる雑誌で、近頃やつと産聲を上げたのであります。題號でも知れる通り一般の家庭雑誌

でいろく家庭のことか載つてあるが、其違ふ特色はといふと、子供育養のことを主にして居るのであります。『お婆さんには三百文安い』これれぬ玩具『靖ちゃんの危篤とその父の禁酒』を始め子供のことについでの記事が、全紙の半分も占めて居るのでも分ります。頁は三十二頁ですが、其割に讀む所が多い様です。家の整理といふ欄に、問答をのせて、例の『月收いくらで家族幾人、この暮し方をたて、下さい』といつて來ると、此方で、其會計を立て、やるといふ風のもある、近來の流行の様ですが、こんなのは一層ない方がとも思はれますが、然し、又世間の人の心はさま々です。定價は六錢、月一回 (日向志評)

短歌募集

▲課題 隨意のこと

▲べ切 七月二十日限り

▲發表 本誌文苑欄

▲賞品 三光に粗景を呈す

▲撰評 みどり短歌會

▲投稿 用紙隨意字体鮮明にして左記の所に宛て送らるべし

伊勢國河藝郡稻生村

みどり短歌會

團 樂 眞宮起雲

平和の光りを得なばこと足ると靈火にやきぬ八千卷のふみ。

梅檀のふた葉薫ずるこのあした父とあふがむ自然